

- 吹田操車場跡地地区において、吹田市域を先導する先進的な環境モデル地区の実現に向けて、関係主体との連携・協働のもと、地区の低炭素化を推進し、魅力的でかつ持続的なまちづくりを実践していくための指針となるもの。
- 都市機能の集約化、交通、みどり、エネルギー、建築物の5分野で、様々な取り組みを実施する計画。

■ 低炭素まちづくりの将来像

まちの低炭素化や省エネ・緑化による先進的な環境モデル地区の形成

■ 計画の期間

平成27年（2015年）4月から10年間

■ 計画の目標

- ◆ 温室効果ガス排出量：整備段階で一般的な街区に比べ30%削減
長期的には75%削減
- ◆ 上水使用量：地下水、雨水、下水高度処理水等の利用による削減
（※定量的な目標値は設けず）
- ◆ 緑被率：「ベース緑」+「クオリティみどり」による評価
（地区全体）40%
（緑のふれあい交流創生ゾーン1）60%
（緑のふれあい交流創生ゾーン2）40%
（医療健康及び教育文化創生ゾーン）35%
- ◆ 総合環境性能：CASBEEによる評価でSランク

■ 計画の区域

計画区域は、土地区画整理事業施行区域のうち吹田市域約15.1haに緑の遊歩道の区域約2.4haを加えた、約17.5haとする。



■ 基本方針

(1) 都市機能の集約化

都市機能を集約した医療クラスターの形成による「健康・医療のまちづくり」の実現を目指します。

(2) 低炭素交通手段の利用促進

公共交通や環境にやさしいモビリティで地区全体をつなぎます。

(3) 緑地の保全及び緑化の推進

地区の緑をつなぎ、ヒートアイランド現象の緩和や健康づくりにも資する、緑が実感できる質の高い空間を創出します。

(4) エネルギーの効率的な利用と非化石エネルギーの利用

エネルギー面的利用・管理に加え、再生可能・未利用エネルギーの活用により、先進的なエネルギー街区を形成します。

(5) 建築物の低炭素化の促進

環境性能の高い建築物の誘導やまちなみの形成を図ります。